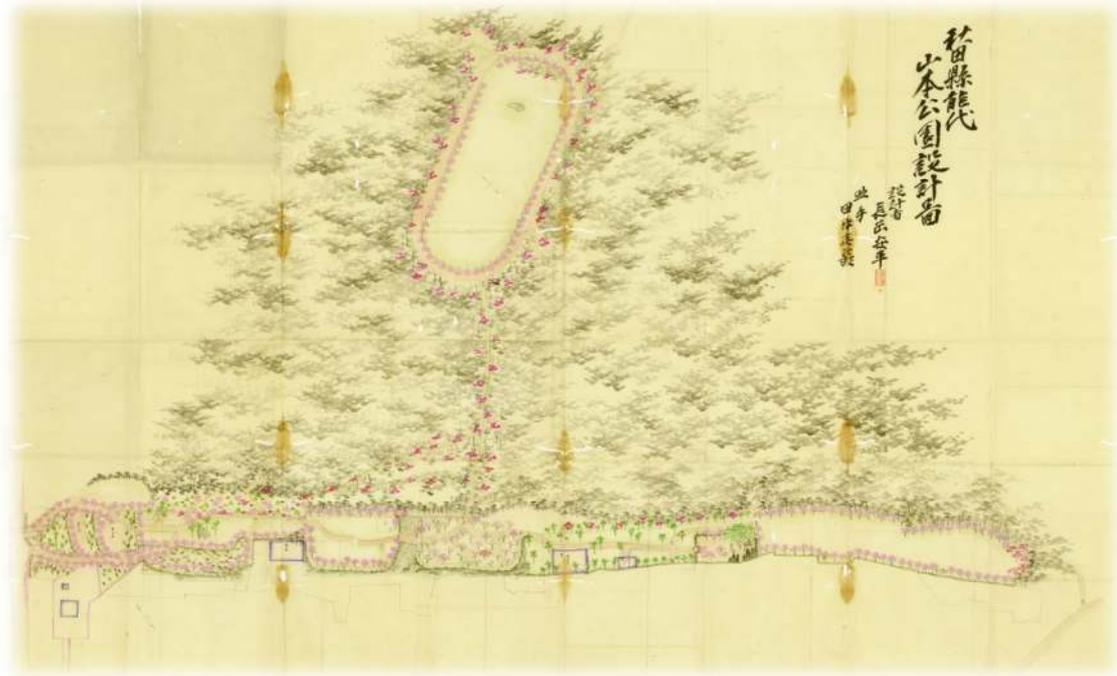


能代公園の整備方針

能代山本公園設計書（明治35年 長岡安平）



（公財）東京都公園緑地協会所蔵

能代市

1 計画策定の背景

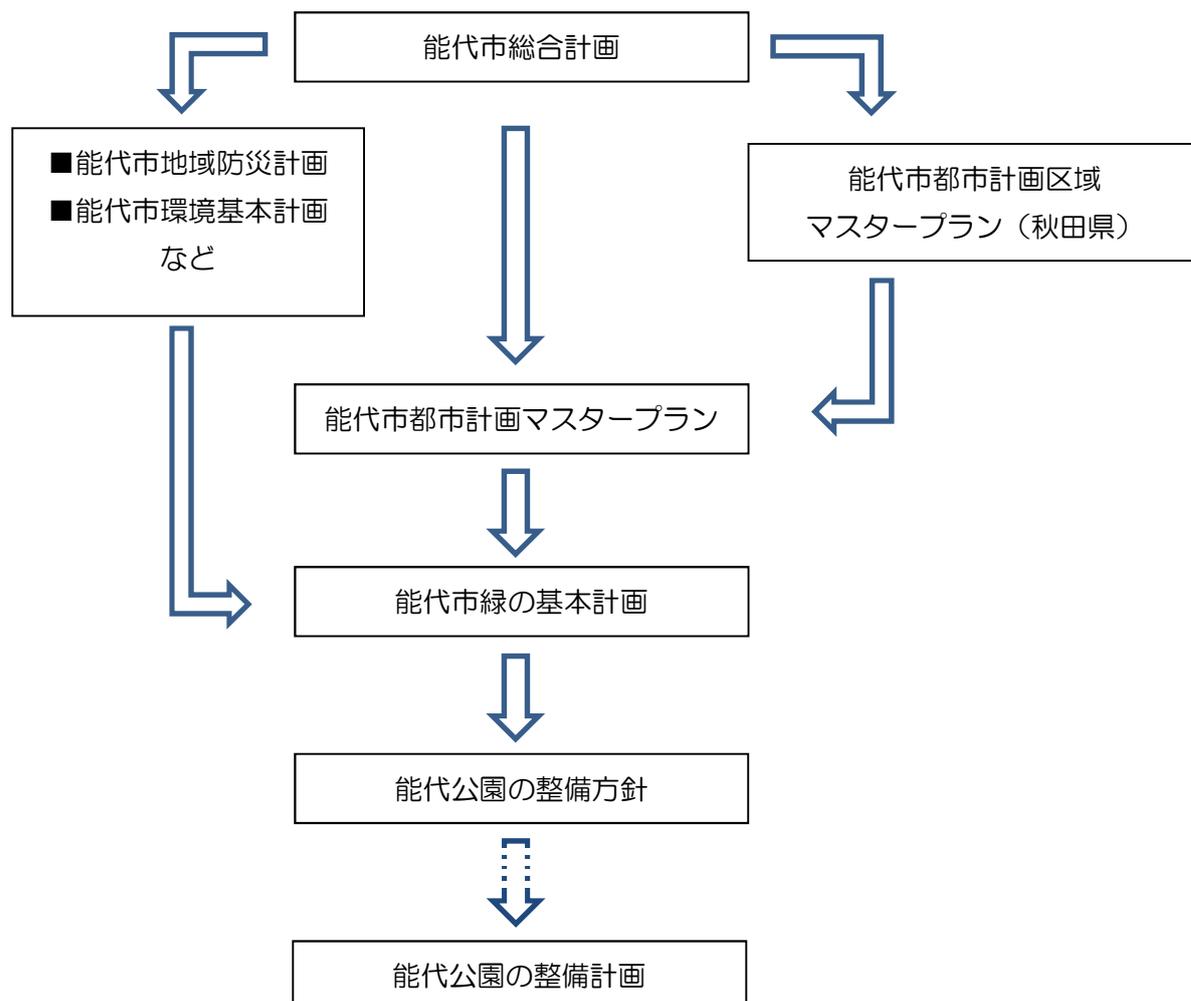
能代公園は、明治33年の開設以来、永く能代市民に愛されてきた、能代を代表する公園ですが、近年は施設の老朽化や桜の老木化、また、少子高齢化への対応や災害時の避難場所としての機能など、求められるニーズが多様化しております。

能代公園が、今後とも市民により一層愛される公園でありつづけるためには、社会の変化に対応した施設等の充実や、維持管理の徹底などが求められています。

2 計画の位置づけ

〇まちづくりの計画

能代市のまちづくりの計画には、「能代市総合計画」や「能代市都市計画マスタープラン」、「能代市環境基本計画」、「能代市みどりの基本計画」などがあり、能代公園の整備計画策定にあたっては、これらの上位計画や能代公園利活用懇談会で示された整備方針に基づきます。



3 能代公園の現況

●3-1 概要

能代公園は旧市内北東部に位置する地区公園で面積約4.9haとなっております。公園内には桜約700本、つつじ約3,400株があり、小丘陵になっている公園内より、能代市街、米代川から続く日本海、白神山地を眺望でき、市民の憩いの場となっております。

●3-2 主な行事

- ・能代公園さくらまつり（4月下旬～5月上旬）
 - ・能代公園つつじまつり（5月中旬から6月上旬）
- ※主催はNPO法人能代観光協会

●3-3 能代公園の歴史

能代公園は明治33年に東宮殿下の御慶事記念に設立され、頂上広場に奉祝碑が建立されました。

公園の設計は東京府職員の長岡安平氏によるものといわれております。

当初は市有地4.03haで公園造成しておりましたが、その後国有地と民有地を借り受け現在に至っております。

【年表】

明治33年	設立
明治35年	能代山本公園設計
昭和40. 10. 23	国有地0.46ha無償借地
昭和41. 4. 14	つつじ庭園を造るため南斜面に植樹
昭和42. 4. 4	庭園築造（循環式滝、噴水、池）
昭和42. 8. 27	庭園内に五重塔築造
昭和44. 6.	つつじ庭園を造るため1万本植樹実施運動推進

4 能代公園の利活用について

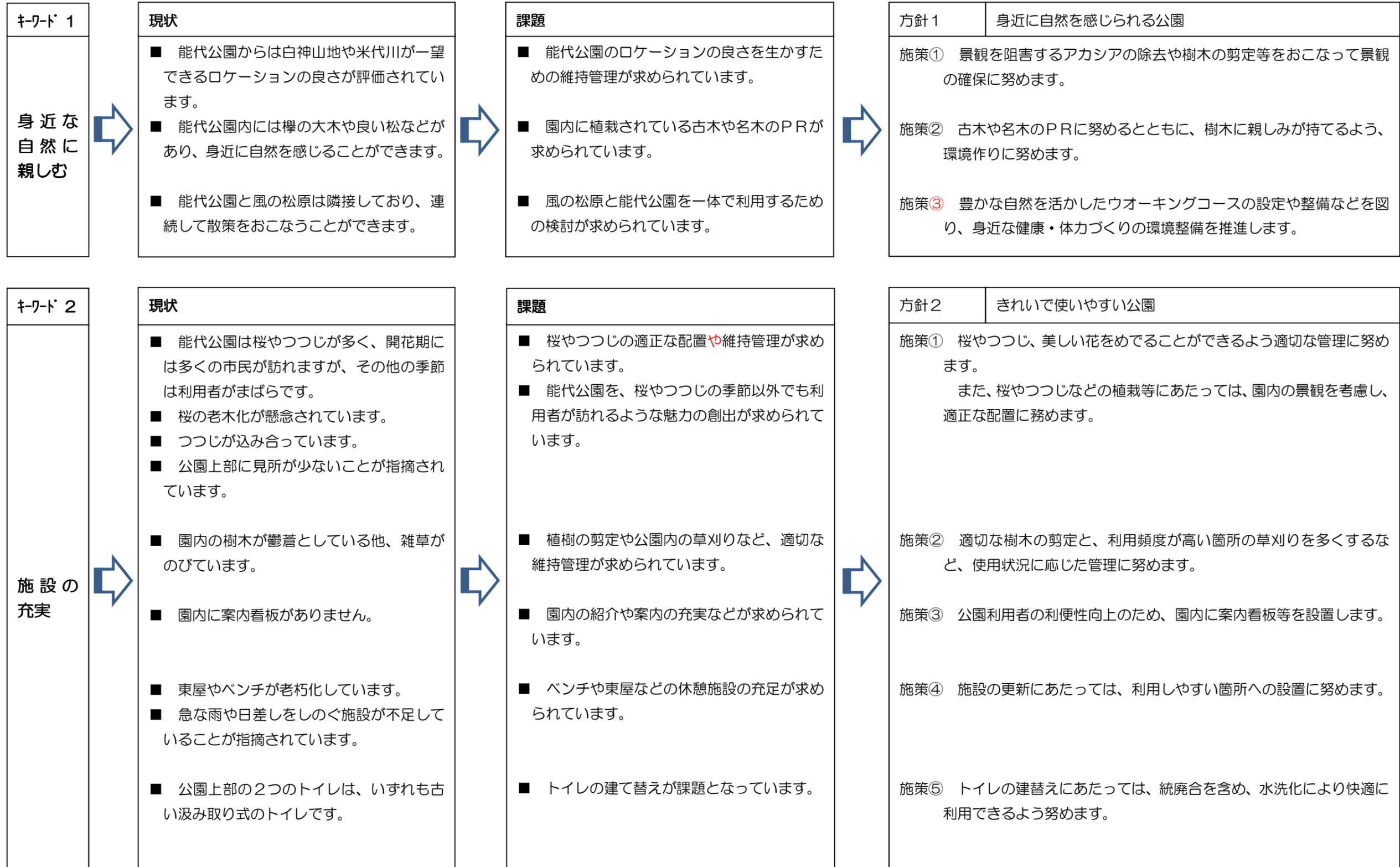
1) キーワードと課題

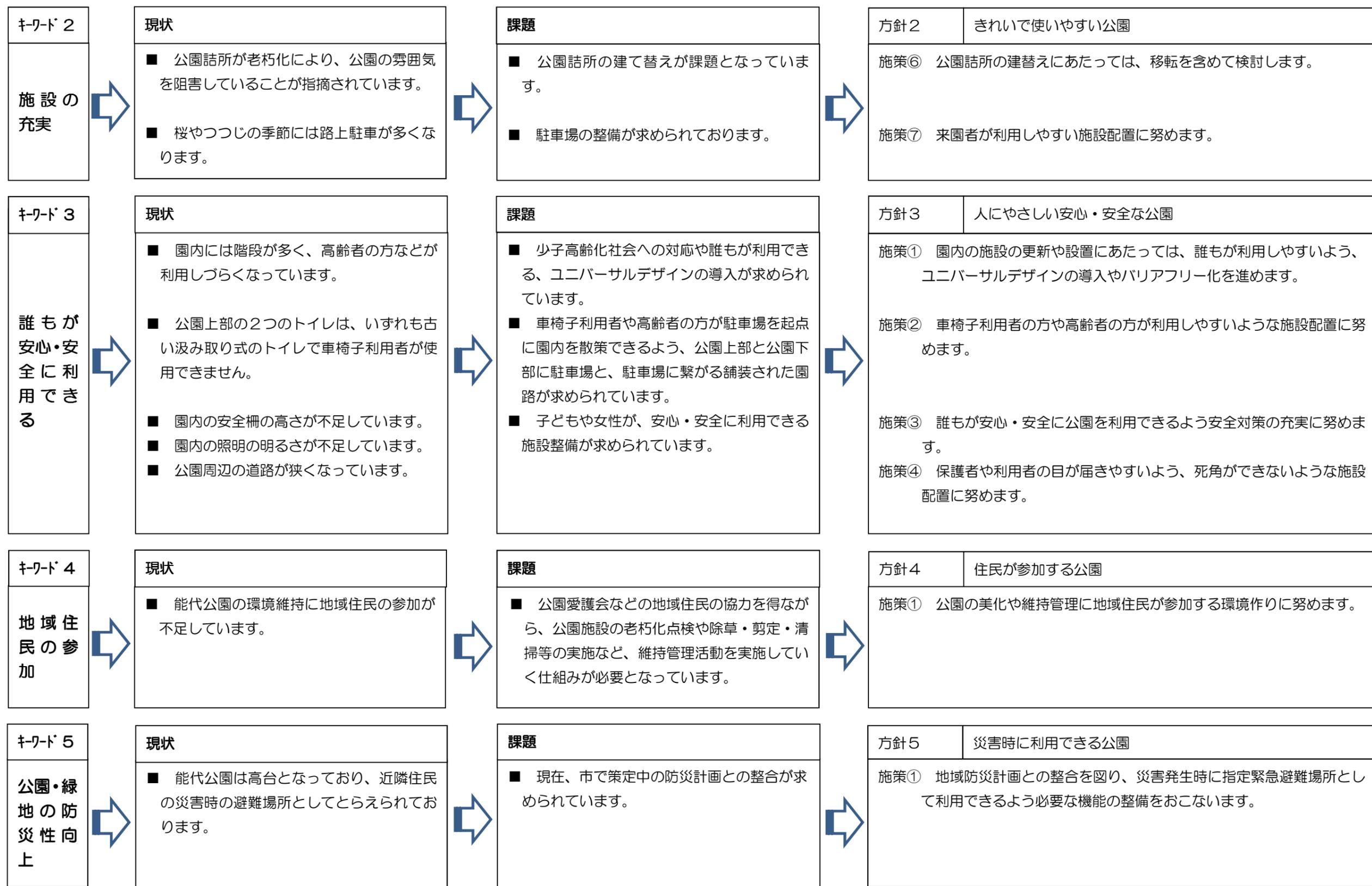
能代公園利活用懇談会において出されたご意見を集約すると、公園の利用者満足度の向上を図るために必要なキーワードは、公園は【身近な自然に親しむ】場所であり、利用にあたっては、社会の変化に対応した【施設の充実】が必要で、【誰もが安心・安全に利用】でき、公園の維持管理にあたっては【地域住民の参加】に加え、能代公園は、近隣住民の災害時の避難場所となっていることから、【公園の防災性向上】が求められております。

2) 整備方針

能代公園利活用懇談会での議論においては、施設の老朽化や少子高齢化社会への対応、安心・安全に利用できる環境整備や、桜の老木化、記念植樹により植栽されたつつじや園内に植栽されている樹木の管理等の意見が多く出されており、また、維持管理費用の低減を図りながら、利用者の満足を得るために、メリハリをつけた維持管理方法の検討が求められており、「キーワード」ごとに、今後の整備方針を設定します。

● 能代公園の整備方針（案）





能代公園利活用懇談会委員名簿

氏名	推薦団体名	役職
清水安雄	能代市公園愛護会	会長
小川勇治	社会福祉法人 能代ふくし会	副会長
尾張桂子	社会福祉法人 能代市社会福祉協議会	
甲谷真奈美	母乳育児サークル ミルキーハグ	
木村 寛	清助町、下浜、浜通自治会連合	
高橋陽子	ごみナビボランティア実行委員会	
中野創太	能代造園技術研究会	
成田 睦	盤若町自治会	
浜野欽子	能代市連合婦人会 能代支部	
山田雄一	特定非営利活動法人 能代観光協会	

一資料編一

<能代市総合計画>

基本目標＝元気とうるおいのまち

政 策＝自然と共生し地域で支える環境保全

基本構想で目指す姿や状態＝

- 自然と親しみ、自然を通して人がふれあい、地域の財産として保全と活用ができること。
- 環境問題に対して適正に対処し、良好な環境を保全できること。
- 身近な環境や自然、エネルギーに関する理解が深まり、地域ぐるみの環境活動につながること。

基本目標＝安全と安心のまち

政 策＝快適で暮らしやすい住環境

基本構想で目指す姿や状態＝

- 安らぎのある憩いの場として、公園や広場などを安心して利用できること。

政策推進に向けた重点指針＝市民の活動意欲が具体的な動きに結びつくよう努めるとともに、多様な主体が連携して、実行段階での効果を高め、市民の活動を地域の力につなげます。

<能代市都市計画マスタープラン>

基本理念＝豊かな自然と共生するまち

将 来 像＝田園や山々などの自然は、市民が都市生活を営む上で欠くことのできないものとして保全・活用し、緑豊かな都市の形成を目指します。

整備方針＝

- 市街地エリア外については、新たな開発を極力抑制し、環境保全に努めます。
- 現状の都市計画区域を維持し、農地や森林を保全します。
- 農地や森林の維持・保全に努め、農林業や木材産業の振興を図ります。
- 都市公園のほか、自然公園や緑地の保全・活用を図ります。
- 身近な憩いの空間である公園等の環境美化・維持管理の充実を図ります。
- 能代河畔公園の計画を見直し、早期完了を目指します。
- 本市固有の豊かな自然環境・景観の維持・保全を図ります。
- 本市固有の自然的環境・景観を活用した観光振興を図ります。

実現・推進の基本的考え＝市民、団体、事業者、行政などの主体的な活動と協働により、その実現・推進を目指していきます。

＜能代市環境基本計画＞

環 境 像＝豊かな自然と共生し、安全で安心して住める環境のまち のしろ

目 標 像＝貴重な自然を残せるまち

環境施設の基本的方向＝貴重な自然環境を次世代に引き継ぎます。

身近な自然環境の保全に努めます。

農林業と環境の調和を図ります。

環境施策の展開方向＝

- 優れた地域環境の保全
- 生態系の保全
- 水辺の保全と活用
- 景観の保全と緑化の推進
- 農地の保全と活用
- 森林の保全と活用

計画の実現に向けて＝環境のまちづくりを推進するためには、市民、事業者、行政が各々の役割に基づいて協力・連携することが必要です。

＜能代市みどりの基本計画＞

基本理念＝緑の価値に気づき、守り、活かす

基本方針＝方針1 緑を守り、未来につなぐまちづくり

方針2 緑が溢れ、心が和むまちづくり

方針3 みんなで育む、緑のまちづくり

目標設定＝市域全体の市民一人当たりの都市公園面積は7㎡以上とし、市街地（用途地域）内の市民一人当たりの都市公園面積は6㎡以上とすることを目標とします。

都市公園のほか、都市公園と同様に利用されている公園・緑地を含めた面積を市民一人当たり20㎡以上とすることを目標とします。

緑地の保全及び緑化の推進のための施策＝

- 森林の保全
- 水辺の保全
- 農地の保全
- 貴重な樹林・樹木の保全
- 風の松原：松くい虫対策、不法投棄防止対策の推進
- 公園・緑地の利用者満足度向上
- 公園・緑地の防災性向上
- 公共施設の緑化
- 民間施設の緑化

- 道路の緑化
- 環境教育や緑化活動の支援
- 緑化意識の高揚

実現・推進の基本的考え＝単に面積的に整備する目標ではなく、その内容として、多くの市民や事業者や団体などが連携し、地域の緑の保全や維持・管理に取り組んでいくことを含んだものとして設定。

上述した4つの上位計画において、総合計画では、本市の自然を「地域の財産」として捉え、また都市計画マスタープランでも「自然は、都市生活を営む上で欠くことのできないもの」としており、環境基本計画では「貴重な自然環境を次世代に引き継ぐ」ことを掲げております。

これらを受けて策定された能代市緑の基本計画では、これら貴重な緑を「多くの市民等と連携し保全・維持・管理」することとしております。

◎ 能代公園利活用懇談会において出された主なご意見

●身近な自然に親しむ

- ・ロケーションがいい（魅力）
- ・ロケーションの良さが生かされていない（問題点）
- ・自然に触れることができる（魅力）
- ・風の松原との連携（課題）
- ・風の松原との連携（魅力）
- ・舗装された遊歩道の整備（改善策）

●施設の充実

- ・桜がきれい（魅力）
- ・桜やつつじと開花時期の異なる花を植える（改善策）
- ・桜やつつじの配列状態が良くない（問題点）
- ・桜もまばらだし、百年過ぎたような桜はいつ死ぬかもわからない状態（問題点）
- ・能代公園のいいところとしてPRする程の桜なのか（問題点）
- ・桜、つつじの季節以外は魅力が不足している（問題点）
- ・桜やつつじが咲き誇っている時期に訪れる（魅力）
- ・桜やつつじの魅力の減少（問題点）
- ・良い松がある（魅力）
- ・枯葉が多い（問題点）
- ・樹木の剪定が必要（改善策）
- ・公園敷地と民家間の土地（問題点）
- ・不要な樹木がある（問題点）
- ・大きな木がある（魅力）
- ・遊べるエリアを決めて管理（改善策）
- ・わき道の整備も必要（問題点）
- ・園内の手入れ不足（問題点）
- ・人が散策する場所や、休む場所を決めて整備
- ・公園が通年利用されていない（問題点）
- ・園内の紹介・PR（課題）
- ・案内表示の不足（問題点）
- ・ゴミのポイ捨て（問題点）
- ・注意喚起が必要（改善策）
- ・公園の池は心が安らぐ（魅力）
- ・心が安らぐ場が少ない（問題点）
- ・東屋が古い（問題点）
- ・ちゃんと休める場所、建物があると安心（問題点）

- ・休憩施設の不足（問題点）
- ・屋根のある休憩施設の設置（改善策）
- ・子供が安心して遊べるスペースがない（問題点）
- ・ベンチ及びベンチ周りが整備されていない（問題点）
- ・ベンチが座れない（問題点）
- ・座って景観を楽しめない（問題点）
- ・老人施設などが一気に集まる（魅力）
- ・駐車場の不足（問題点）
- ・施設の老朽化（問題点）
- ・駐車場の整備（対応策）

●誰もが安心・安全に利用できる

- ・園内の樹木が鬱蒼としていて見通しが悪い（問題点）
- ・安心して子供を遊ばせることが出来ない（問題点）
- ・安全柵が整備されていない（問題点）
- ・施設の老朽化（問題点）
- ・道が狭く坂になっている（問題点）
- ・若いご家族が多かった（魅力）
- ・園内が暗い（問題点）
- ・東屋へ行く経路が整備されていない（問題点）
- ・止まるところも無く押せ押せ状態（問題点）
- ・少子高齢化社会への対応（問題点）
- ・施設の老朽化、時代のニーズに不適合（問題点）
- ・下のトイレは多目的トイレがあってオムツ替えなども出来て使いやすい（魅力）
- ・上にも多目的トイレがあれば魅力的になる（対応策）
- ・階段が多い（問題点）
- ・公園の上下に駐車場の整備が必要（対応策）

●地域住民の参加

- ・公園の知名度、愛着の不足（問題点）

●公園・緑地の防災性向上

- ・津波等の避難場所（魅力）
- ・避難地として最適（魅力）
- ・狭い双方向の道が1本しかない（問題点）
- ・市の防災計画との整合（課題）